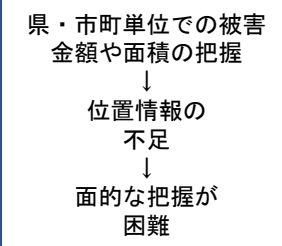
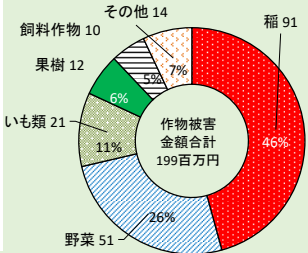
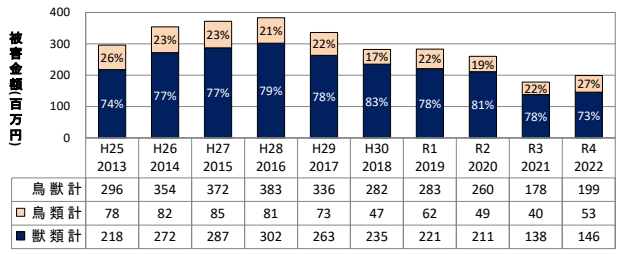


令和5年度 獣害対策のための集落アンケート（集計結果の概要）

令和6年3月 栃木県環境森林部自然環境課

背景と目的

これまでの被害の把握方法



被害・生息・対策等の情報を面的に収集することにより、県や市町における被害対策の目標設定や評価に活用しやすくなる

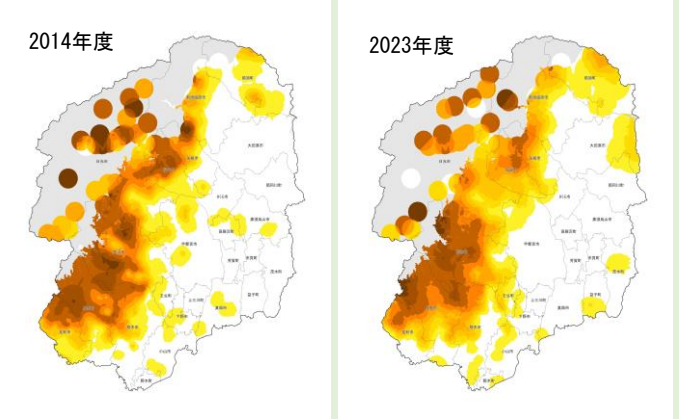
調査方法

アンケートの配布先	自治会長や農業推進委員等
配布時期・方法	令和5年11月・郵送や回覧等
配布数	3,541 (回答数: 2,538)
回答数	2,538 (回答率: 72%)
調査の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○集落の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・獣害問題の重要度 ・被害防止施設の設置状況 ○対象鳥獣毎の状況 <ul style="list-style-type: none"> 【ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、ツキノワグマ、ハクビシン、アライグマ、カモシカ、カラス、カモ】 ・生息 (いる・いない) ・農業被害 (ほとんどない・軽微・大きい・深刻) ・出没状況 (あまり見ない、たまに見る、よく見る) ・実施した対策とその効果 (無・有・不明)
回答の対象期間	令和5年4月～11月までの状況

集計結果

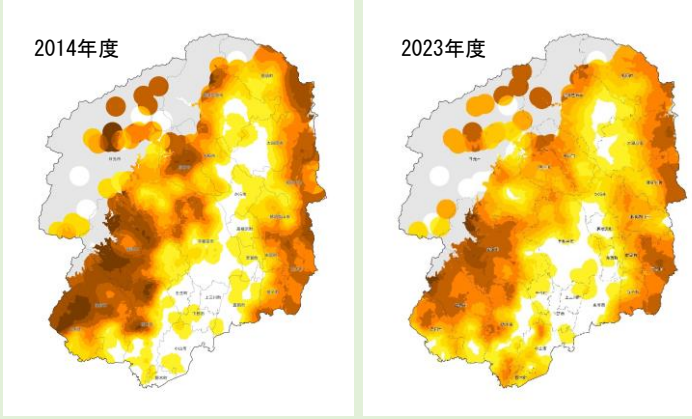
被害程度マップの年度間比較

ニホンジカ



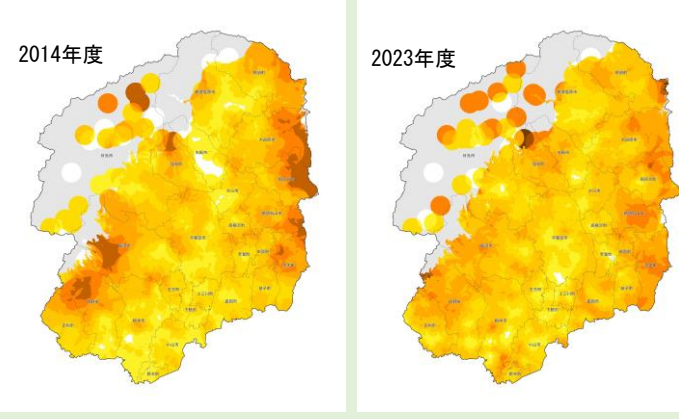
- ◆県西部において、被害が「深刻」又は「大きい」集落が多く分布していた。
- ◆2014年度と比べて、県北東部において被害地域が拡大していた。

イノシシ



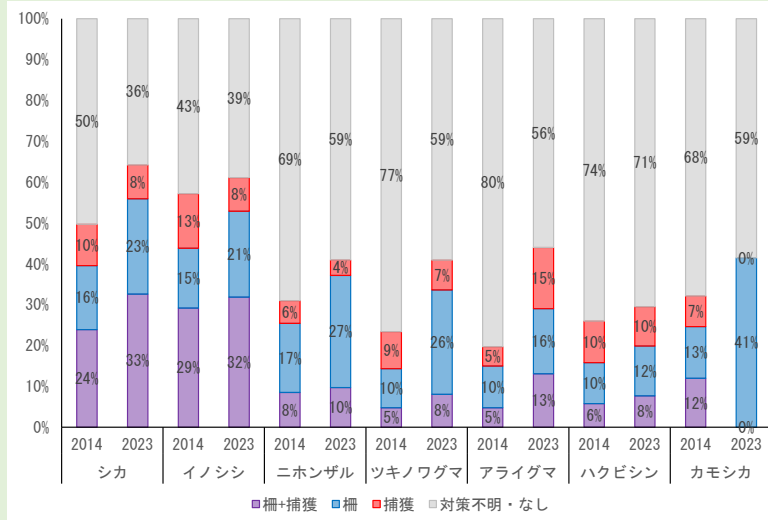
- ◆県中央部の平野部を除き、「深刻」又は「大きい」集落が広範囲で分布していた。
- ◆2014年度と比べて、県南部において被害地域が拡大していた。

ハクビシン



- ◆被害が「深刻」な地域は少ないものの、県全体に被害地域が分布していた。
- ◆2014年度と比べて、「軽微」以上の集落が増加していた。

被害集落における獣種毎の対策の現状



- ◆いずれの獣種でも、対策を実施している集落の割合が増加した。
- ◆ハクビシンでは、対策を実施しているという回答が29.5%にとどまった。